

## サービ斯拉ーニング活動を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科2年 大塚 日菜子

活動先：親子の広場 あんだんて

担当教員：野尻 紀恵 先生

### 1. 自分の成長と気づき

私がサービ斯拉ーニング活動の中で気づいたことは2つある。

1つ目は、子どもたちには解決能力があるということだ。小さな小競り合いや喧嘩でも子どもたちだけでは解決できないが大人や我々学生が解決の小さな糸口を与えることやいっしょに悩むことで子どもたちは解決へと向かっていくということに気づいた。

たとえば、外遊びをしていて取りたい木の実がなっていた時に子どもは「あれとって！」と私たちに話してくる。けれどこの場合は「どうやったらとれるかな？」と一緒に悩むことが大切である。すると複数の子どもたちで「肩車は？」や「タモを使えばいいんじゃない？」などの意見が次々と挙がった。この姿を見て私は子どもには私たちが思っている以上の能力があることを発見した。

2つ目は、企画を行う準備段階としてシミュレーションは重要であるということだ。これを行わなければ必要な道具や子どもたちの動きがイメージできないからである。私たちはシミュレーションを軽視していた部分があったために企画で問題が起こり、その重要性を身をもって体験することができた。

実習中にこのようなことがあった。その日は小さな運動会という企画をやる予定であったため朝から相方の山田君と一緒に準備をしていた。大縄、台風の目の棒など3種目あり、1種目、1種目必要な道具と時間配分を口頭で確認した。が、子どもたちを外に集めた時に2種目に使用する借り物競争の風船が膨らんでいないことに気づいてしまったのだ。流れの確認をしたのにもかかわらず、ミスを侵してしまった。活動先の先生とお母さんたちに協力してもらい私たちが1種目目を行っている間に準備して下さった。先生方にもお母さん方にもがっかりさせてしまった。

反省会時には先生方には「シミュレーションは何回やっても良いもの、あらゆるハプニングが起こった時のことを考えて。」と教えていただいた。また、1人ではなく相方と2人で確認したのにもかかわらず本当に情けなく思った。

以上の2つのことから自分の成長になったこととして、「後先を考えた行動をとること」「計画を設計する」ということが挙げられる。やはり、結果・終結が自分の中で取り込めていないとその過程が無駄になってしまうことや、子どもに不安を与えることを学んだ。そのため、1日の反省を次の日からの課題とし、タイムスケジュールを組み、子どもたちが混乱しないような噛み砕いた言葉かけをした。また、これとつながって何か説明する時はカンニングペーパーをつくり、何を言いたいのか箇条書きにするのではなく文章化するということが同時に学んだ。文章をつくることでルールができるからだ。子どもはあらか

じめルールがないと屁理屈をつけ、みんなのルールではなく自分のルールを作ってしまう。そのため、シミュレーションの1つとして説明文を作成することにより全体像が見え、企画でのミスが最低限に抑えることができると学んだ。

## 2. 活動中の喜び

活動中は悔しい気持ちや連日というのもあり体力的にも辛かったこともあった。けれどその中でふとした瞬間の喜びは心を温かくした。特に印象的な出来事は2つある。

1つ目は、1の自分の成長と気づきでのところで述べたように、子どもの能力には驚いたことだ。私が小学生のころは果たしてその能力が備わっていたのだろうか。私が木の実を素直に言われたまま取っていたらこのような姿は見られなかったと思う。とても喜ばしく感じ、笑顔になれた。

2つ目は、ペイントをしたときの出来事だ。男の子は特に全身絵具だらけになり真っ赤になっていた。ある小学1年生の子が筆を使って絵を描いている時に私が「赤と白混ぜたら何色になるか知ってる？」と聞くと「わからない」といい、実際に絵具を混ぜて色を作ってみた。すると「あ、ピンクだ！」と嬉しそうにその色を使っていた。それを見た周りの子も他にはどんな色が作り出せるかと実践を始め、キラキラとした目に感動をした。何気ない会話、私は色を混ぜたら何色になるのか学校で既に習っているだろうと思っていて話しかけた為そのような表情が見られて嬉しかった。

## 3. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

あんだんては地域の子育て家庭のニーズに応じて事業を始め、そのスタンスは今でも変わっていない。企画の研究で訪ねた時に「ニーズを形にするのが私たちの役割」と話してくださった。企画（行事）をたてる場合目的は親子になってしまうことが多く、地域の方からもあんだんて＝子ども、となっているため高齢者はあまり近づいてこなかったという。そこで年齢の枠を取っ払い、うどんを食べる企画（行事）をつくると、人生の先輩・子育ての先輩が集まり多世代交流ができたそうだ。それにより、子どもは地域で育ちやすい環境が作られているし、保護者も「困ったな」と思ったときに頼りになる地域作りがされていると思う。また、私たちの実習中に将棋を教えてください方や木工や竹細工を教えてください地域に住むボランティアを招き、そこから地域の人と子どもはどう関わっているのか学ばせていただいた。ここでも町ですれ違った時に挨拶ができるようになるなど年配の方から教わるのと学校でただ習う礼儀・作法は違うようだ。あんだんてでは親も子ども共に過ごしやすい町づくりや子育て支援を地域活動として行っていることがわかった。

## 4. まとめ

私は活動の6日間と研究をして感じたことは素直にこの町がうらやましいと思った。小さいころから誰かに会いに行く場所があり、遊びに行く場所がある。保護者も頼れる場所

があると思うだけで子育ての活力になると思う。あんだんではNPOではないがNPO  
でさえ埋められないところを補っているように感じた。東浦町には児童館や障害児の施設  
はあるが会費をだし、あんだんてへ地域の人々が集まるのには事業者の熱い思いや人生の  
経験があるため信頼関係が形成されていると思う。また、リフレクションによりここまで  
学び進めることができ良かった。本来ならば活動中に気づかなければならなかったと思  
うが、サービスラーニングによって私の人生が豊かになれた。